

米国特許商標庁 (USPTO)、
オンラインによる子供向け知的財産教育カリキュラムを提供

2008年4月15日
JETRO NY 澤井、横田

USPTO は 14 日、児童・生徒等の創造性を高め、知財の価値や他人の知財を尊重することの重要性を啓発すべく、オンラインによる新たな知財教育カリキュラムの提供を開始する旨、発表した¹。

発表によれば、i-SAFE²の協力を得て開発したこの「i-©®eaTM カリキュラム³」は、小学校高学年から高校生までを指導対象とし、教師に対して、知財の重要性等を指導する際に参考となる指導要領 (lesson plan) や授業材料を提供するもの。若い発明家達の印象的な話やインターネットでの特許・商標検索実習などを通じて発明プロセスを教える内容となっており、i-SAFE が運営する i-LEARN Online にて利用可能⁴とのこと。

デュダス USPTO 長官は、発表に際し、「米国が保有する知財の価値が 5 兆ドルを超える今日、未来の発明家達が知財保護プロセスを理解し、併せて、技術革新に向け創造性を高める事業を推進することは重要」とのコメントを寄せている。

USPTO は子供向けの知財教育活動に積極的であり、同発表においても USPTO の継続的な啓発・教育活動に言及。i-©®eaTM カリキュラムは、次世代発明家に対する教育事業の一環であるとし、これまでテレビ、ウェブサイト等の各種メディアの利用、及び若者向け啓発プログラムへの支援などを通じた取り組みを続けてきたと強調としている。こうした取り組みには、創造性を高め、知財保護プロセスの子供向けウェブゲーム⁵の提供なども含まれている。なお、USPTO 等は、現在、「不可能なことは何もない。絶えず考えよう。(Anything's possible. Keep thinking)」との子供向けメッセージで全国的なラジオ・テレビコマーシャルを展開している⁶。

なお、我が国においても、独立行政法人工業所有権情報・研修館による人材育成事業として、小・中・高・大学等の各教育機関向けに、長く知的財産教育支援活動を進めるとともに、その対象は米国とは異なるものの、オンラインによる知財啓発事業として IP・eラーニングを提供しているところ、この 14 日より携帯型端末を利用した視聴学習サービスも開始している。

(了)

¹ <http://www.uspto.gov/web/offices/com/speeches/08-16.htm>

² i-SAFE は、若者のインターネットの安全な利用教育を目的として設立された非営利組織。詳細は [同団体ホームページ](#) を参照。

³ [i-©®eaTM カリキュラムパンフレット](#)

⁴ <http://ilearn.isafe.org/> ただし、利用には登録等の設定が必要であるとのこと。

⁵ <http://www.inventnow.org/>

⁶ テレビコマーシャルは、<http://www.uspto.gov/video/index.htm> から視聴できる。